

松小ビジョン

第2期学校経営中期計画

(平成18年度～平成20年度)

高松市立松島小学校

はじめに

従来、学校はともすれば社会の動向と関わりなく、自己完結的な組織や行動原理の下で運営されてきました。その結果として、学校が子どもの個性や能力に応じた教育が成されきれずいじめや不登校、学力低下などの様々な問題が指摘される状況にあり、更に学校運営そのものも社会のグローバル化や情報化など社会システムの変化・進展に対応でききれていないことなどの問題もあります。

また、本校を含む高松市中心部小中学校の新設統合は私たちにとって差し迫った問題であり、特に小中一貫教育という義務養育9年間を接続した新たな教育の推進は、その正否によって子供の生涯を左右する大きな責任を負う課題であります。

こうした学校を取り巻く内にも外にも大きな課題が山積する中で、将来的な展望を見据えつつ、子供たちの豊かな成長を実現するためには、学校は社会との関わりの中で在り方を捉え直し、保護者や地域社会の期待や要望をしっかりと受け止め、また協力を受けながら、その信頼に応える新しい時代の学校づくりを進めることが不可欠であると考えます。

私たちは、平成15年10月に「夢と楽しさを育む学校」をテーマに新しい学校づくりの目標を掲げ、3か年という中期の学校経営計画を策定し、継続的に学校改善に努めてまいりました。

私たちは、これまで3年間の第1期学校経営中期計画の成果と課題を踏まえ、本年度から平成20年度までの第2期中期計画を推進します。

第1期取り組みの評価

第1期の取組は平成17年度を持って終了しましたが、保護者の皆様の絶大なご協力や地域の皆様方の多大なご支援により、大きな成果を上げることができました。

1 私たちが掲げる理想の学校像は「子供たちに夢と楽しさを育む学校」でしたが、子供たちの92%が楽しいと答えてくれています。また保護者の皆様へのアンケートでは97.5%の方にお子様を楽しそうであると受け止めていただきました。

2 本校の学校経営上の大きな課題は「学力向上」であります。教育委員会の多大なご協力もあり、学力が大きく向上できたと感じています。まず香川県教育委員会が実施している「学力状況調査」の結果にも向上がはっきりと見られます。更に、本校が独自に実施している学習内容未定着状況調査でも2学年以上の未習得者が15年度各学年に2割余りいましたが、17年度は全校で1割足らずまでに減少しました。

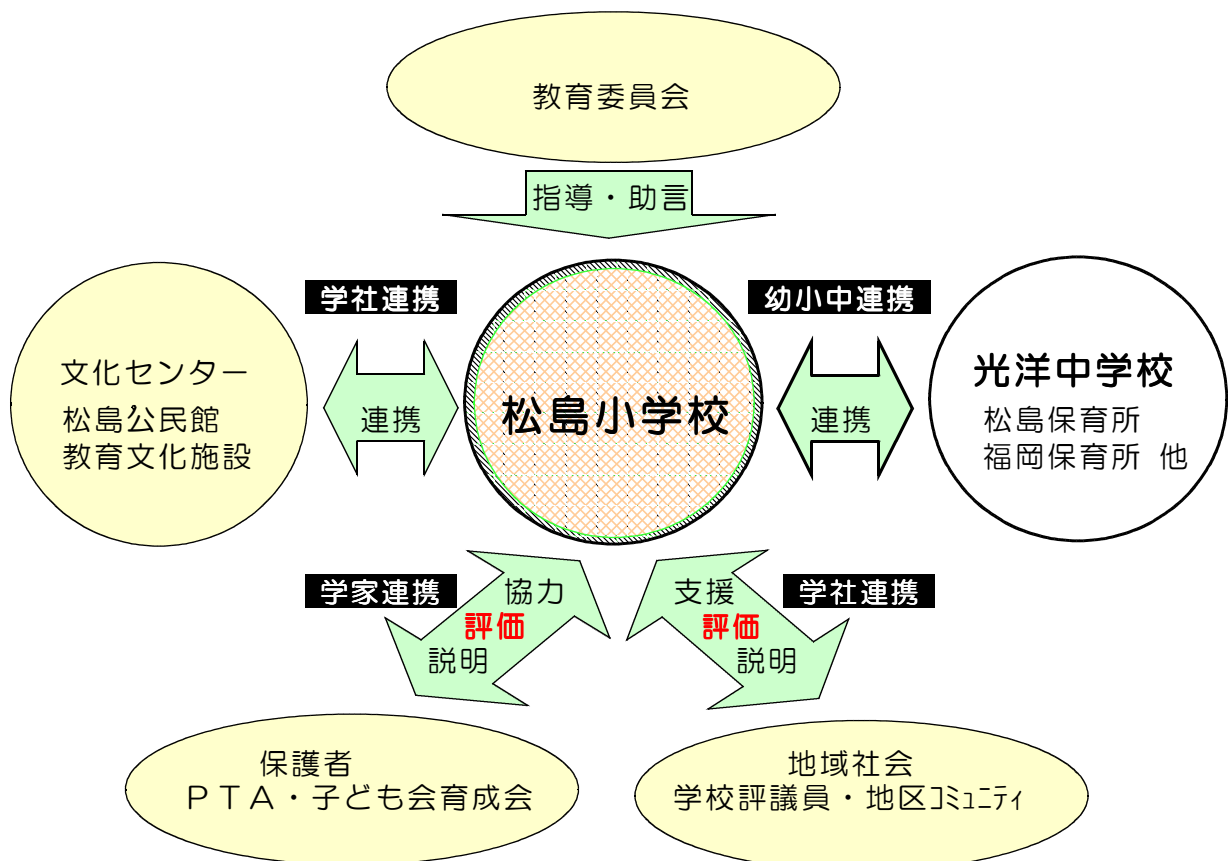
また、家庭学習の時間も大幅に改善されてきており、30分程度はどの子でも家庭学習するようになり、学びの習慣も育っています。

3 昨年度末に保護者や児童にお願いした学校運営や学校生活についての調査では、ほぼ全ての項目にわたり全体の75%~85%の満足の評価を得ました。また、不登校傾向を持つ児童についても、担任教師の継続的な個人指導などの努力もあって、恒久的に休む子供は皆無となり、今年度不登校による長期欠席者はいません。

第2期中期計画の新視点

- 1 新設統合校での4・3・2制による小中一貫教育の実施を見越した取組
平成21年4月に本校を含む3小学校と2中学校が統合され、新設校が開校します。こうした動きを受け、学校運営と教育活動において円滑な移行ができるような視点から計画を作成します。
- 2 地域の愛情を感じながら育ち、地域の発展を願い役割を果たす子供の育成
情報化が進む中で知識志向、中央志向が進み、身近な体験や地域のよさ、有り難さが子供の心のなかで薄れがちです。保護者の皆様や地域の皆様と協力しながら自分の生活を支えてくれている身の回りのものや身近な地域を大切にする心を育てる視点から計画を作成します。
- 3 保護者や地域住民の理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりの推進
学校運営の自律的・継続的な改善・充実と地域住民・保護者の学校運営への参画を促進するとともに、学校設置者が支援と条件整備の改善を適切に行うことを目的に、「学校評価ガイドライン」を示しました。このガイドラインに沿った計画を作成します。

「松小ビジョン」実現に向けた教育システム



「松小ビジョン」とは

目指す学校像

「夢」と「楽しさ」を育む学校

今、子どもの心に学校はどのように写っているのでしょうか。

本来、学校は、子ども達にとって「夢」を育む「楽しい」ところです。子ども達が「未知の世界」を学ぶ場であり、「できる世界」に導かれる場でもあります。また、多くの仲間と出会い、競い合い、助け合う場であり、また心を許せる友をつくる場でもあります。更に、様々な人との出会いの中で、正義を学び、生き方に触れ、将来への夢を育む場でもあります。

物に恵まれ、情報が溢れる時代です。学校の役割や機能をもう一度問い直し、子ども達にとって魅力ある新しい学校づくりを進めます。

目指す子どもの姿

子ども一人一人の社会的自立

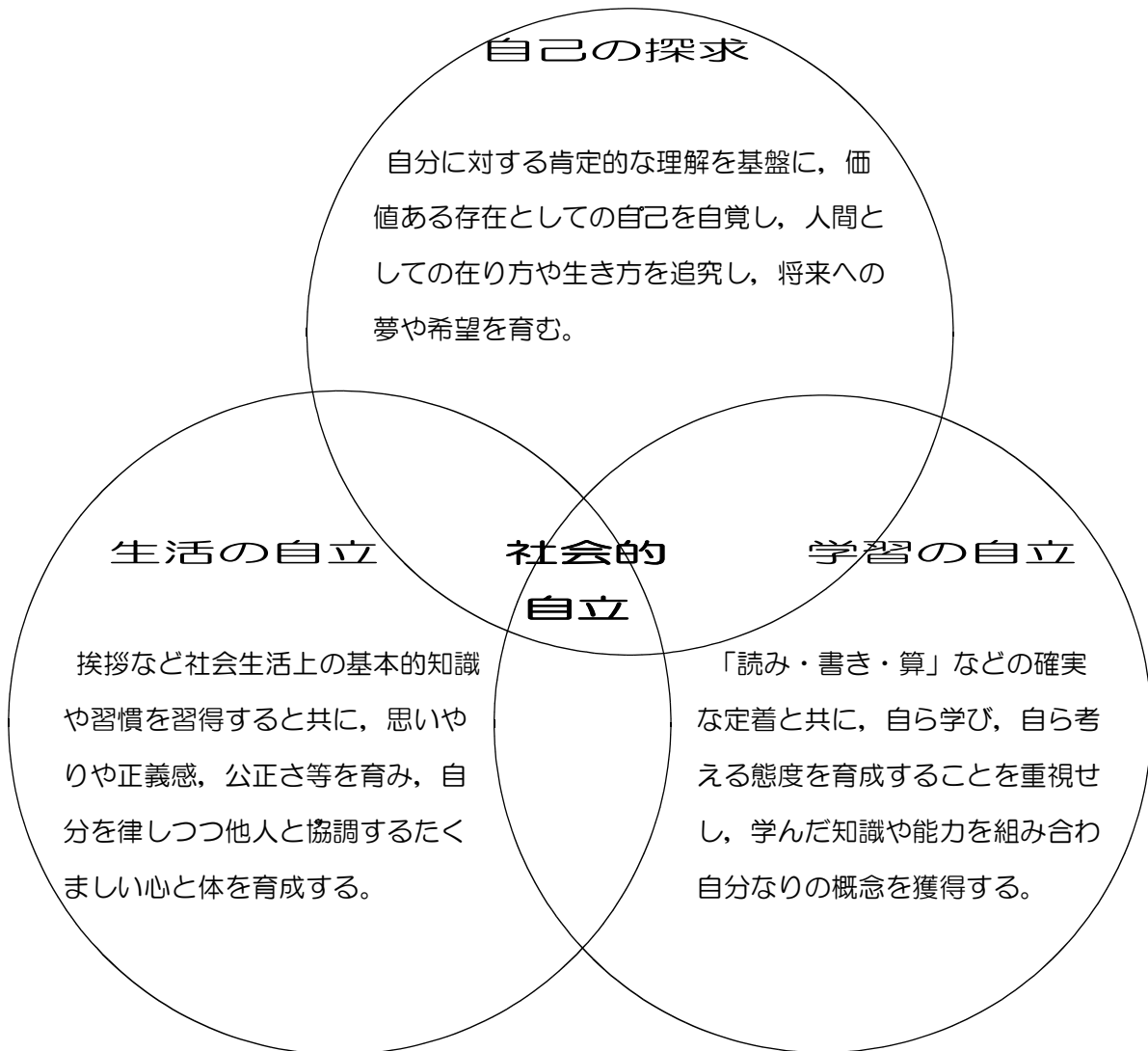
今、日本社会は、情報化、国際化、環境、福祉、医療など様々な問題や諸課題が山積です。より豊かな社会を築いていくためには、次代を担う子ども達に、「社会の中で、自分はどう生きるか、何を成すべきか。」という視点を教える必要があります。

日々の学校生活や家庭生活、社会生活を楽しいものにすると共に、広く社会に目をやり、将来に夢を持ち、学習や様々な活動に粘り強く挑戦する、たくましい子どもを育成します。

「社会的自立」とは

新しい時代の人づくりのねらいである「社会的自立」のキーワードは、「高い理想」「創造性」「たくましさ」の3点です。即ち、「社会的自立」とは、一人一人がそれぞれに大きな夢や高い理想を持ち、社会の中での役割やよりよい生き方を追究し、自らのよさ（資質や能力）を生かし伸ばし、たくましく、また粘り強く自己の創造に取り組む子どもを育てることです。

「社会的自立」を支える3つの視点



「生活の自立」を目指す教育活動

努力事項

- 明るく笑顔で挨拶し、他人に温かい言葉かけができる人間性とコミュニケーション力を持つ子どもを育てます。(4年)
- 安心・安全な生活上必要な生活習慣を確実に身につけ、善悪の判断など基本的な倫理観と社会規範を尊重する心を持つ子どもを育てます。(4年)
- 課題解決のため挑戦的に物事に取り組むたくましさや、最後まで諦めずに粘り強く問題解決に努力する根気強さを持つ子どもを育てます。(4年)
- 他人への思いやりの心を持ち、正義感、公正さを重んじ、自己を律し社会と協調できる子どもを育てます。(6年)
- 学級や学年、学校や地域を超えて広く仲間づくりを進め、地域社会への愛情と社会貢献の精神を持つ子どもを育てます。(6年)
- 生命あるものや美しいものに感動する心、また自然への畏敬の念など柔らかな感性を持つ子供を育てます。(6年)

施 策

- ◇ 児童会と地域団体による「挨拶運動」の実施
- ◇ 異年齢集団による「なかよし活動」の充実・発展
- ◇ 「道徳の日」実践の充実による心の教育の一層の充実
- ◇ 3校合同による集団宿泊学習や修学旅行など学校行事の推進
- ◇ 子供の心が育つ教室や校庭の整美など生活空間の充実
- ◇ 学校評議員制や学校評価の改善による開かれた学校づくり
- ◇ PTA活動の活性化による子どもの心の安定と居場所づくり
- ◇ 地域諸団体との連携・協力による安全・安心の学校・地域環境づくり

「学習の自立」を目指す教育活動

努力事項

- 全ての子供に「よく聞く」「しっかりと話す」「ていねいに書く」など基本となる学習態度を育て、正しい姿勢で学習する習慣を確立します。(4年)
- 生活や学習の基盤となる「読み・書き」と「四則計算」の力は、子どもに学年相当の力を確実に身につけさせます。(4年)
- 自学自習の学習習慣づくりを継続的に指導し、学年にふさわしい時間の家庭学習を進んでする子どもを育てます。(4年)
- 卒業時、「教科書をすらすら読む力」「400字の文章を書く力」「四則計算をする力」の3つの力を、全ての子どもに育てます。(6年)

- つまずきの分析や習熟度別学習により，学習指導要領の目標や内容を全ての子どもに理解させます。（6年）
- 体験活動や表現活動を重視した問題解決的学習を進め，子どもに思考力や判断力などの能力を育てます。（6年）
- 「発展的な学習」を取り入れ，一人一人の子どもの個性や能力を積極的に伸ばします。（6年）

施 策

- ◇ 「ステップアップスクール」事業の推進
- ◇ 「一斉読書」「短作文」「自作ドリル」の実施と奨励
- ◇ 習熟度による少人数指導やTTによる学習の推進
- ◇ 発展的な学習のための教材の開発
- ◇ 小中教員の連携による教科指導の推進
- ◇ 高学年における教科担任制の導入
- ◇ 「エネルギー教育実践校」事業等科学教育の推進
- ◇ 地域の自然や文化施設を活用した体験的な学習の推進

「自己の探求」を目指す教育活動

努力事項

- 自分のよさや持ち味を生かし，自信と誇りを持って物事に進んで取り組む子どもを育てます。（4年）
- 目標をしっかりと持ち，果敢にチャレンジする勇気と最後まで諦めず努力する忍耐力を子供に育てます。（4年）
- 地域の豊かな自然や文化，またそこで誠実に生きる人に学び，地域を愛する心とボランティアの精神を子どもに育てます。（4年）
- 将来への夢や理想，志を持ち，自己実現に向けて粘り強く取り組む子どもを育てます。（6年）
- 広く世界の人と関わり，また良書の世界を親しみ，広い視野から自らの未来に夢を抱き，その実現に努力する子どもを育てます。（6年）

施 策

- ◇ 「校内音読カップ大会」の実施と県大会への積極的な参加
- ◇ 「総合的な学習の時間」の目標及び活動内容の見直し
- ◇ 地域の自然や文化施設，人材を活用した教育活動の推進
- ◇ 図書館の充実による読書指導の推進
- ◇ 小学校英語教育の導入
- ◇ 非常勤社会人講師や学習ボランティアの活用

